

[評価基準]A:高い成果が得られた B:予定どおりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった

基本 目標	基本的 方向	施策	具体的な取組	施策内容	施策の効果についての意見	評価（プルダウンで選択してください）				
						A	B	C	D	E
1 子育てしやすいまち										
1-1 経済面で出産をサポートするとともに出産・育児の不安を軽減する										
		1-1-1 出産に対する経済的支援	① 不育症治療費及び一般不妊治療費助成	子どもを望む夫婦の出産に関する経済的な負担を軽減するため、不育症治療費や一般不妊治療費に対する助成を行います。	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児健診受診率の低下に歯止めがかからない状況にある。改めて要因分析を行い改善に取り組んでいただきたい。 ・乳幼児健診受診率が昨年度よりも更に低下し、目標との乖離が大きくなっている。育児に対する市民実感度も低下していることから、母子保健への取組強化が求められる。 ・受診率の低下にはコロナ流行の影響があったのか。 ・実際にお子様を持たれたご夫婦にこのような支援が行われていることを伝えるだけではなく、結婚を考えている人たち、また結婚をされていて子供を持っていない方々にもっと積極的にこの支援が受けられることを広く告知することで子供を持ついろんな側面での不安を軽減できると感じてもらえるようにして欲しいですね。いかに出生率を上げることができるか、が鍵だと思います。 ・母子健康手帳を電子化し、アプリで配信することはできないのでしょうか？（電子版親子手帳が該当するのかもしれませんが） ・乳幼児健診受診率が年々低下しているが、当該健診は乳幼児の健全な発達に資する取組であり、SNSを活用するなど周知に力を入れていただきたい。また、健診受診に対する特典を設けるなど、インセンティブを与えることで受診率を高めることができるのではないか。 		1	6	1	
			② 母子保健の充実	健やかな妊娠・出産を迎えるため、妊婦一般健康診査の費用助成を行います。また、疾病の早期発見・治療、障がいの早期発見、育児支援等のため、乳幼児健康診査・訪問指導・育児教室・子育て相談などを行います。						
		1-1-2 産前産後ケアの充実	① マタニティコンシェルジュの配置	妊娠・出産・育児に関する様々な不安解消のため、専門職であるマタニティコンシェルジュを配置し、母子健康手帳交付時からの全妊婦との面接、ケアプランの作成、各種サービスの案内など、妊産婦を細やかにサポートします。	<ul style="list-style-type: none"> ・妊産婦の不安解消につながる相談機能が発揮できている。電話対応に限られる場面であっても、相談スタッフのスキル習得なども図りながら引き続き支援をお願いしたい。 ・マタニティコンシェルジュによる産前産後ケアが定着し、支援体制は十分に機能していると思われる。 ・マタニティコンシェルジュへの相談件数が大幅に増加するなど、コロナ禍で孤立しがちな子育て世帯の不安軽減につながっていると考える。 	1	4	3		
			② 産後サポートの充実	産後の心身の安定と育児不安を解消するため、各種育児相談に応じるほか、産婦・新生児や乳児訪問、家庭訪問を実施します。また、健康づくりリーダー等が、産婦や子育て中の保護者の相談相手やサポート役になります。						

[評価基準]A:高い成果が得られた B:予定どりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった

基本 目標	基本的 方向	施策	具体的な取組	施策内容	施策の効果についての意見	評価（プルダウンで選択してください）					
						A	B	C	D	E	
1-2 子育て世帯の時間のゆとりをつくる											
		1-2-1 就学前保育の機能強化	① 保育所の整備	増加する保育需要に対応するため、従来から取り組んでいる保育所の整備や幼稚園のこども園化に加え、小規模保育事業や市内企業への働きかけによる企業主導型保育事業を推進し、待機児童の多い地域を中心にその解消に取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> ・「資格をいかそう！相談会」への参加者数が大幅に増加しているにもかかわらず、雇用に繋がったのが3名のみで留まった要因を分析されたい。 ・実質待機児童数が計画どおりに減少していることは喜ばしいが、2年後にゼロにするためには一層の取組が必要と思われる。 ・保育士さんの確保が難しくなっている原因について事情をもう少し具体的にお聞きしたいと思います。 ・「資格をいかそう！相談会」への参加人数は令和2年度に比べ大幅に増加したが、相談会参加者のうち新たに雇用された保育士数は逆に減少している。相談会に参加した（興味がある）にもかかわらず、雇用募集に応募しなかった方へヒアリングし、応募に至らない要因を把握した方がよいと考える。 			8			
			② 保育士の確保	増加する保育需要に対応し、入所児童の増加につなげるため、県と連携し、柔軟な働き方や処遇改善を進めながら潜在保育士の雇用を促し、待機児童の解消に取り組みます。							
			③ 保育コンシェルジュの活用	増加する保育需要に対応し、入所児童の増加につなげるため、保育コンシェルジュを配置し、保育の需要と供給のミスマッチを解消することで、待機児童の解消に取り組みます。							
			④ 就学前保育・教育サービスの充実	働き方が多様化することに伴う、就学前保育・教育サービスのニーズの多様化に対応するため、保育所における延長保育や一時預かり保育、休日保育、病児・病後児保育等を実施するとともに、幼稚園における預かり保育を実施します。また、時代に応じた就学前保育・教育ニーズの変化を把握し、さらなるサービスの充実に向けた検討を行います。							
		1-2-2 学童保育の機能強化	① 学童保育の充実	増加する保育需要に従い増加する学童需要に対応するため、学童保育環境の改善を図るとともに、柔軟な働き方や待遇改善を進めながら学童指導員の確保に取り組みます。また、民間保育事業者における学童保育事業を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ・計画どおりに進捗しており、問題は見られない。 ・民間事業者の参入を促進させていることは良い。 		6	2			
1-3 子育て世帯にとって魅力的な教育を行う											
		1-3-1 教育環境の充実	① ICTを活用した教育の推進	教員の指導力の育成を図るとともに、分かりやすい授業を実施し、児童生徒が主体的・協働的に学習できる環境を整え、確かな学力を育成するために、ICT機器を積極的かつ効果的に活用した授業を行います。また、小学生からのプログラミング教育の必修化に対応した取組を進め、奈良先端科学技術大学院大学や奈良工業高等専門学校との連携を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの自己肯定感の低下が深刻である。子どもたちに寄り添い、一人ひとりが個性を発揮することができるようサポート強化をお願いしたい。 ・英語教育を推進するには、英会話に触れる時間を増やすことが求められるが、英検準1級以上の英語力を有する教員が減少しているのは大きな問題である。 ・特に①について、コロナ下での実態がどうだったのか評価に含めて欲しい。 ・ICT活用は世界的に見ても日本は大きく遅れを取っているため、更に積極的に取り組んでいただきたいと思います。また、英語教育は、受験の為の英語ではなく、今後グローバル社会に生きていく基礎づくりとして、英語をコミュニケーションのツールとして捉え、そのツールを活用し子供たちが世界の子供たちとコミュニケーションできるようなイメージの教育にシフトアップして行ければベストだと思います。 ・「夢を与える」施策として、中学生に職業体験させる機会を与えてはどうか。市内で受け入れ可能な企業を募集し、一週間程度、実務を体験させることで、将来なりたい自分を発見する機会とする。 ・全体的に児童生徒の学習についての数字がさがっているように感じた。コロナの影響もあるのかもしれないですが気になりました。 						
			② 英語教育の推進	小学校で英語の基礎的な力を身につけ、コミュニケーション能力の育成を図るため、小中9年間を見通したカリキュラムを作成したうえで外国語指導助手（ALT）の配置や、小学校1年生から市独自の教材を使用する等、子どもの興味関心を引くよう工夫しながら、小学校のすべての学年で英語教育に取り組みます。			1		4	3	
			③ 夢を与える講演会・学校創造推進事業	自分の夢に向かって生き生きと活動し、自己有用感を持って、将来、社会で活躍できる人材の育成に努めていくため、市民や市出身者をはじめとする各界で活躍する方（文化人、スポーツ関係者、事業者等）を招き、子どもたちが優先して参加できる、夢を与える講演会を実施するなど、特色ある教育活動を実施します。また、子どもたちが、失敗を恐れず、新しいチャレンジに挑戦できる機会を確保できるよう支援します。							

[評価基準]A:高い成果が得られた B:予定どおりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった

基本 目標	基本的 方向	施策	具体的な取組	施策内容	施策の効果についての意見	評価（プルダウンで選択してください）				
						A	B	C	D	E
1-4 コミュニティ形成等を通して子育て世帯の精神的なゆとりをつくる										
		1-4-1 子育て世帯を応援 する情報提供の推 進	① 子育て世帯向けの多様 な情報発信	子育て世帯が子育てに関する情報を容易に取得できるよう、妊娠・出産・子育てに関する知識やスキルを修得するための機会や情報を提供する講座を開催するとともに、乳幼児の予防接種や定期健診等のスケジュールなどの情報を、電子版親子手帳やオープンデータを活用した多様なツールを利用して発信していきます。	・ホームページのPVを同条件で集計できないのなら、目標値の見直しが必要と考える。 ・職員の方々のITリテラシーを向上されるとさらに良い結果が生まれるのではないのでしょうか？	3	5			
		1-4-2 子育て世帯の交流 促進	① 子育て世帯同士の学 び・交流支援	子育て世帯の孤立化を防ぐため、子育て支援総合センターを中心とした子育て相談や育児教室の開催、幼稚園・保育所で未就学児や保護者が遊び集える場を提供する子育て広場など、子育て世帯同士の学び・交流の機会を充実し、子育てを支え合う取組や活動を支援します。また、地域と連携し、地域内で子育て世帯が交流できる場を設けます。	・ひろば事業の参加者、直営拠点の利用者が、共に計画との乖離が大きく、実施内容の見直しが必要。 ・アウトプットが目標よりも大きく下回っているのはコロナウィルス感染拡大が大きな原因でしょうか？ ・コロナ禍で各種事業への参加者が目標を大幅に下回ったことはやむを得ないと思うが、孤立する子育て世帯が発生しないよう、引き続き最大限の感染防止策を講じて交流の場を設けていただきたい。			6	2	
		1-4-3 地域で子育てを見 守る体制の強化	① 地域・行政・周囲のひと による子育ての見守り強 化	子育て世帯の孤立化を防ぎ、子どもたちが安心して成長できるよう、乳幼児を持つ家庭への訪問による見守り、相談等を実施し、虐待等の未然防止に努めるとともに、家庭、保育機関、学校、地域等が連携して子どもの人権や安全を守る意識を育てます。	・コロナ禍とはいえ、CAP講習会が未開催になったことは残念。開催ニーズに対応するため、開催方法の検討が必要。		2	5	1	
	② ファミリー・サポート事業の 利用促進		ファミリー・サポート事業の会員登録を進め、地域における育児の相互援助活動を推進し、地域全体で子どもたちの成長を見守り、子育て世帯の孤立化防止につなげます。							
1-5 子育て世帯が安心して生活できる地域をつくる										
		1-5-1 災害・犯罪等に対す る安全性の向上	① 指定避難所への防災備 蓄	災害時における住民の防災力を強化し、自主防災活動を活性化するため、災害用備蓄倉庫を備えていない指定避難所における資機材整備を進めます。	・通学路の対策必要箇所数が増加し、交通事故も増加していることを踏まえれば、一層の安全教育が求められる。 ・④通学路の再点検について現状を知りたい。（帝塚山大学） ・災害発生時には大勢の市民が指定避難所に集まることになるため、指定避難所のコロナ感染防止策を講じ、それを周知することで市民にも一定の安心感を与えてほしい。 ・自主防犯意識が高まり、刑法犯罪認知件数も減少傾向が続いている。ぜひ「住みやすい街」としてPRしていただきたい。 ・（第2期生駒市まち・ひと・しごと創生総合戦略の91ページには「累計」とは明記されていませんが）「子ども110番の家」設置件数は累計ですね？累計だとするなら、令和2年度の1,528件から777件へと半減した要因は何ですか？ ・奈良県防災士会生駒ブロックは2023年3月をもって活動を終わると聞きました。防災士会の事務局を引き継がないことが原因だそうです。この点について生駒市として何かフォローできないのでしょうか。		4	4		
	② 自主防災会の活動支 援・促進		自主防災活動を活性化するため、自主防災会が自らの地域に根ざした防災訓練を実施し、自主防災組織間のつながりや協力体制の強化を促します。学校区単位での防災訓練の実施、企業や市民団体と連携した活動を行うことで地域の防災力を強化します。							
	③ 自主防犯活動の支援・ 促進		犯罪の起こりにくい明るいまちを築いていくため、地域の安全は地域で守るという自主防犯意識の高揚や地域によるパトロール等の防犯活動など、地域による自主防犯活動を支援します。							
	④ 通学路等安全対策		子どもを交通事故や犯罪から守るため、「生駒市通学路交通安全プログラム」及び国の「登下校防犯プラン」に基づき、関係機関と連携して、各小学校の通学路や未就学児が日常的に集団で移動する経路等の合同点検を実施し、安全に安心して通学等ができる環境整備を進めます。また、市民の協力による「子ども110番の家」の設置を推進し、子どもが犯罪に巻き込まれないよう地域で子どもを守ります。							

[評価基準]A:高い成果が得られた B:予定どりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった

基本 目標	基本的 方向	施策	具体的な取組	施策内容	施策の効果についての意見	評価（プルダウンで選択してください）				
						A	B	C	D	E
2 働き盛り世代が希望の仕事ができるまち										
2-1 職場での多様な働き方を広げる										
2-1-1 働き方をめぐる環境 の変化に応じたワーク ・ライフ・バランスの 実現	①	ワーク・ライフ・バランスの普及啓発	仕事と家庭の両立を促進するため、生駒商工会議所との連携による市民や事業者へのワーク・ライフ・バランスについての意識啓発や、市役所や市内事業所を対象に、育児休業等の取得促進、ワーク・ライフ・バランス先進企業等の取組の紹介など、子育てしながら就業しやすい環境づくりを支援します。	<ul style="list-style-type: none"> ・企業一覧の掲示だけでなく、取組事例なども踏まえたイクボス宣言事業者のPRをもっと積極的に行ってほしい。 ・合同就職面接会の参加企業数が増加し、面接者の新規雇用数も増加していることは良い傾向と言える。 ・この4つのテーマでは、あくまで「過程」における議論で終わっているのが残念に思います。働くこと働き方はその先の「成果」と「評価」がベースになっていなければならないと考えます。根本的な視点を変えていかないと、ただスタイルの話になって、結果、個人においても国家全体においてもただただ生産量が落ちていくだけになっていくのを危惧しています。 ・②-1についてイベントが0というのはリアルでしか実施できないイベントということでしょうか？オンラインなどで実施できなかったのか？ 	1	5	2			
	②	テレワーク等の推進	ワーク・ライフ・バランスの実現や子育て世帯の女性の就業機会を拡大するとともに、働き盛り世代の市内就労を促進するため、テレワークの導入支援やサテライトオフィスの誘致等テレワークの普及促進に取り組みます。							
	③	女性の活躍推進	男女がそれぞれ、個性や能力を発揮した生きがいのある人生を送れるよう、事業者と連携し、家庭や職場、地域社会等における女性の活躍促進に取り組み、それぞれが自分の能力や個性を輝かせ、自分らしく生きることができる社会を目指します。また、市役所においても、女性管理職の積極的な登用や附属機関等への女性委員の参加促進に取り組みます。							
	④	就業意欲がある人の支援	市内企業の安定的な経済活動を支援するとともに、就業意欲のある人を応援し、多様な人材の雇用確保に取り組むため、ハローワーク等と連携して、市内の就職情報を提供できる環境整備や情報の提供・周知を行うこと等により、子育て中の女性やスキルを持った高齢者など多様な人材への就業支援を行います。							
2-2 家族の近くで希望する仕事に就ける環境をつくる										
2-2-1 産業の活性化	①	企業立地の推進	市内で雇用を生み出し、地域経済循環を活性化させるため、県担当課と連携した工業団地周辺の基盤整備や補助、支援制度の展開など、魅力ある操業環境を整え、企業や研究施設の立地に取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> ・企業立地件数や新規雇用者数が増加していることは良い傾向と言える。 ・既存企業への支援策がマンネリ化しており、工夫が必要と思われる。 ・生駒市の産業の活性化を図るのであれば、明確な数値目標を設定し、そのロードマップの作成し大企業の誘致と既存の中小企業または個人事業主の底上げ的なバックアップの両側面を平行に行っていかなければ成果は期待できないように感じます。 ・企業誘致により雇用創出や人口増加が見込まれるため、誘致エリアの拡大及びインフラ整備を急ぐ必要がある。 	1	6	1			
	②	既存企業への支援	これまで地域を支えてきた既存企業の安定的な経済活動を維持・拡大するため、生駒商工会議所と連携して、既存企業の経営の安定化や販路の拡大を支援し、安定した雇用確保に取り組みます。							

[評価基準]A:高い成果が得られた B:予定どおりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった

基本 目標	基本的 方向	施策	具体的な取組	施策内容	施策の効果についての意見	評価（プルダウンで選択してください）				
						A	B	C	D	E
2-2 家族の近くで希望する仕事に就ける環境をつくる										
2-2-2 起業支援	①	起業希望者・起業家間のマッチング及び起業マインドの醸成	起業希望者によるビジネスの立ち上げを支援するため、起業希望者・起業家間のマッチングや事業活動の立ち上げを支援する起業支援者との交流会を開催します。また、早い段階から起業など多様な働き方に対する意識を醸成するため、様々なスキルを有する市民や団体、企業と協働し、子どもたちの生き抜く力の育成や未来を描くことができるセミナー等を開催します。	<ul style="list-style-type: none"> ・IKOMA LOCAL BUSINESS HUBやいこま経営塾など、起業支援への取組は他の自治体よりも積極的といえる。 ・今後の課題は、参加者の卒業後に伴走支援をどのように行っていくかである。 ・起業希望者が抱える夢とそれに伴うリスクについて理解を深める事で更に多くの起業希望者を募らせることはできます。 ・起業支援を行うことで雇用創出にもつながる。よろず支援拠点における相談件数は高い推移となっており、起業予備軍は多いと考えられる。その予備軍が一步踏み出す後押しにするため、創業時の借入に対する利子補給制度を創設してはどうか。 ・子どものイベントについては学校教育と連携し、GIGAスクール端末の活用もしてオンラインで実施できる工夫をお願いしたい。 	4	3	1			
										②
2-3 今後需要の増加が見込まれる事業分野における仕事や人材を育てる										
2-3-1 子育て分野における就労の促進	①	保育士の確保【再掲】	増加する保育需要に対応し、入所児童の増加につなげるため、県と連携し、柔軟な働き方や処遇改善を進めながら潜在保育士の雇用を促します。	<ul style="list-style-type: none"> ・「資格をいかそう！相談会」への参加者数が大幅に増加しているにもかかわらず、雇用に繋がったのが3名のみで留まった要因を分析されたい。 	1	7				
2-3-2 介護分野における就労の促進	①	介護関係資格取得費の支援	市内の介護施設等で働く介護人材等の不足を解消するため、資格の取得等にかかる費用の支援等を行うことで地域人材を活用し、介護人材不足の解消につなげます。	<ul style="list-style-type: none"> ・介護現場の魅力発信の取組は働きがいにつながる有意義なものであると考える。引き続きの情報発信をお願いしたい。 ・ほぼ計画どおりに進捗しており、問題はない。 ・介護人材を増やすことは必須。それらに方々への支援はこれまで以上に広げていただきたく思います。 	3	5				
2-3-3 食に関する地域産業の創出	①	プロ農業者の確保と育成	農業の活性化と農業者の営農意欲を向上させ、プロ農業者を育成するため、農地の積極的な斡旋、農地情報の提供、営農相談、設備投資支援等による新規就農者や既存農業者への支援を拡充することにより、地域農業の振興に努めます。また、農業に関するノウハウを共有するため、民間事業者や大学等と協議を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・農地見学会の実施を積極的に行ったとのコメントだが、参加者数が減少していることへの対策が必要。 ・農家さんへの支援は流通、売り場の確保に尽きると思います。生産者→流通→消費または生産者→料理人→消費へと繋がるのループを作ることができれば自ずと生産者が増え、販売支援にも繋がると思います。 	7		1			
	②	農作物の販売支援	農業者の収入を増やし、営農意欲を向上させるため、小商い農業の推進や地場野菜等の流通促進、学校給食用食材の利用拡大、農作物のブランド化、6次産業化の促進などに取り組み、プロ農業者だけでなく小商い農業者の販売促進につなげます。							

[評価基準]A:高い成果が得られた B:予定どおりの成果が得られた C:一定の成果が得られた D:やや不十分な成果にとどまった E:成果は不十分もしくは見られなかった

基本 目標	基本的 方向	施策	具体的な取組	施策内容	施策の効果についての意見	評価（ブルダウで選択してください）				
						A	B	C	D	E
3 働き盛り世代が住みたいまち										
3-1 働き盛り世代が移り住みたいまちをつくる										
		3-1-1 まちの魅力発信や観光・交流の促進による交流人口の拡大	① いこまの魅力創造事業	市のイメージを向上させ、市外に住む働き盛り世代からの興味関心を喚起するため、シティプロモーションサイト「good cycle ikoma」や市公式フェイスブックの運用、各種広告などにより、多様な暮らし方や多様な住まい方が可能なまちであることや市の魅力を市民協働で発信します。また、魅力体感イベント「IKOMA SUN FESTA」をはじめとした各種事業により、将来住民になる可能性のある方々に対して生駒暮らしの魅力を伝えます。	・SNSを効果的に運用するため、マンネリ化しない情報発信に期待。 ・生駒市の魅力を一言で言えば何なのでしょう？一言で表せるインパクトのある言葉を作り、それらを軸として広報展開をしていくと更なる成果が期待できるのではないのでしょうか。 ・コロナ禍で三密を避けるために自然を満喫できるオープンスペースでのイベントを推進していただきたい。		1	5	2	
		3-1-2 多様な住まい方・暮らし方の推進による流入人口の促進	① 空き家の流通促進と住宅のリノベーションの推進	多様な住まい方・暮らし方への受容と理解を図りながら、空き家の流通を促進し、良好な中古住宅の活用を推進するため、空き家流通施策やリノベーション事例の発信を広く効果的に展開します。また、事業者と一体となって、近居・住み替えニーズの掘り起こしと魅力的な賃貸住宅の供給策を検討するなど、本市にふさわしい土地利用のあり方を考えます。	・空き家流通プラットフォームの取扱件数が計画どおりに進捗しており、有効に機能しているといえる。 ・コロナを振り返れば、生駒市は移住者を呼び込むのにかなりの優位性があったはず。					
			② 移住支援金の交付	県が中心となり国の認定を受けた地域再生計画に基づく施策として、人口の東京一極集中を是正し、地方へのUIターンを促すため、東京23区在住者又は23区への通勤者が本市に移住し、県内の対象法人に就業、又は起業した場合、移住支援金を交付します。			7	1		
			③ 既存住宅の診断や改修に対する支援による流通促進	耐震改修やリフォーム、バリアフリー化に関する相談窓口等を設置するとともに、耐震化に対する支援を行うことにより、既存住宅の流通を促進します。						
3-2 働き盛り世代を中心に幅広い世代が住み続けたいまちをつくる										
		3-2-1 多様な主体との協創による都市ブランド形成	① いこまの魅力創造事業	市民PRチーム「いこま宣伝部」やシティプロモーションサイト「good cycle ikoma」の運用、魅力体感イベント「IKOMA SUN FESTA」の実施をはじめ、庁内外の連携によって生駒の人・モノ・コトと出会い、このまちに暮らす喜びを感じられる場、多様な人と人の関係性が育まれる場をつくれます。また、新しい暮らし方をする人や能動的にまちで活動する人の活動のサポートや、継続的な発信によって、一過性のプロモーションではなく、生駒らしい都市イメージを形成し、暮らし続けたいと思う人の増加を目指します。	・生駒市に住んでいることに誇りを持っている人の割合が漸減している。増加に転ずるために、どのような政策が有効かをアンケート調査してみてもどうか。 ・理想で言えば、今現在生駒に住まれている方から生駒をPRできれば良いですね。あと、生駒市民の生駒に対する愛、シヴィルプライドがどの様に形成されたかなど。ただ、利便性が良く住んでいるだけで街に何の想いも持っていないとすれば、人は更なる利便性を求め出ていかれることにも繋がっていくリスクも考慮しておかなければいけないと感じます。 ・①-Aと①-Bで10ポイント程度の開きがある。生駒市への居住を「強くもしくはある程度勧めたい」が、生駒市に住んでいることに「強いあるいはある程度誇りを持っている」とは言えない層が一定程度存在しているということ。満足度調査において、「誇りを持っている」とまでは言えない理由を回答してもらい、阻害要因を取り除く必要がある。		5	2	1	
			② 地域特性に応じたまちづくり（ミライ会議）	暮らしを共にする人たちが、自ら住む地域の将来課題を知り、永く楽しく暮らすために必要な取組は何かを考え、実現を目指すためのきっかけの場（ミライ会議）をつくり、地域住民による地域主体のまちづくりを目指します。						
			③ ICTや民間活力を活かしたまちづくり	人口構造の変化に伴う多様な地域課題に対応するため、Society5.0の実現に向けてICTやデータの活用を進めるとともに、民間のノウハウや知識の導入をはじめ、地域課題解決ワークショップを開催するなど、多様な主体との協創連携を進めます。そうすることで、公共サービスの価値を高め、まちの魅力向上を目指します。						
		3-2-2 協働イベントの開催による楽しく活力のあるまちの創出	① イコマニア・イベントの実施	市民生活に活力を生み出し、イベントを通じて人的ネットワークを拡大し地域力を向上させるため、市民・団体との協働で行われる楽しい公共・公益イベントを「イコマニア・イベント」として認定し、情報発信することで、楽しく活力のあるまちづくりを実現します。	・コロナ禍とはいえ、イコマニア認定事業開催回数が低調だったのは残念。市民活動への積極的な支援が求められる。（南都銀行） ・【再掲】理想で言えば、今現在生駒に住まれている方から生駒をPRできれば良いですね。あと、生駒市民の生駒に対する愛、シヴィルプライドがどの様に形成されたかなど。ただ、利便性が良く住んでいるだけで街に何の想いも守っていないとすれば、人は更なる利便性を求め出ていかれることにも繋がっていくリスクも考慮しておかなければいけないと感じます。		1	5	2	
		3-2-3 文化芸術活動やスポーツ活動への参画機会の創出によるまちへの愛着やシビックプライドの醸成	① 文化芸術活動・地域スポーツへの参画機会の創出	小学校の brassバンドや中学校の吹奏楽をはじめ、本市は音楽活動が非常に盛んであることから、地域の音楽活動を更に広げるため、市民自らが企画・提案し創り上げる音楽会や、子育て世帯が親子で参加できる音楽会を開催するなど、子育て世帯をはじめとした文化芸術活動への参加を促進します。また、働き盛り世代や子どもをはじめ誰もが身近にスポーツを楽しめるよう、地域スポーツの中心的存在として活躍が期待されている総合型地域スポーツクラブと連携して、個々のライフスタイルに応じた、スポーツを楽しめる場を創ります。さらに、市体育施設指定管理者等と連携し、市内スポーツ施設を活用したトップアスリートと触れ合えるスポーツイベントを積極的に開催します。			1	5	2	